

2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年2月10日

上場会社名 株式会社ラバブルマーケティンググループ 上場取引所 東  
 コード番号 9254 URL <https://lmg.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 雅之  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 中川 徳之 (TEL) 03-6381-5291  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	1,187	20.1	19	△87.2	17	△86.9	△1	—
2022年3月期第3四半期	988	—	149	—	136	—	72	—

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △0百万円(—%) 2022年3月期第3四半期 74百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△1.32	—
2022年3月期第3四半期	60.77	57.17

(注) 1. 2023年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	1,298	470	34.8
2022年3月期	1,326	464	33.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 452百万円 2022年3月期 447百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,742	25.5	205	2.5	201	7.3	122	34.4	87.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年3月期3Q	1,410,025株	2022年3月期	1,402,525株
2023年3月期3Q	一株	2022年3月期	一株
2023年3月期3Q	1,405,405株	2022年3月期3Q	1,190,656株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている予想値は、現時点において入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定要素を含んでおります。実際の業績は内外の情報変化等により、本資料の数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響が継続する中、経済活動は正常化が進み、景気が持ち直していくことが期待されます。しかしながら、世界的な金融引き締めなどを背景とした景気の下振れリスクや、ウクライナ情勢の影響によるエネルギー価格の高騰などから、先行きは依然として不透明な状況です。当社グループが事業を展開するデジタルマーケティング領域におきましては、従来からの市場成長に加え、オフラインからデジタルへの移行が加速しており市場環境は当社グループの事業に追い風となっております。

このような状況の下、当社グループでは「運用支援」、「運用支援ツールの提供」、「人材教育」といった当社グループ独自のソリューションを強みに、企業のマーケティング活動を総合的に支援してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,187,280千円（前年同期比20.1%増）、営業利益19,181千円（前年同期比87.2%減）、経常利益17,902千円（前年同期比86.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失1,857千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益72,361千円）となりました。

セグメントごとの業績は以下のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「マーケティングオートメーション事業」から「DX支援事業」に変更しております。当該セグメントの名称変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

## (SNSマーケティング事業)

企業のSNSアカウントの戦略策定から開設、運用代行、キャンペーンの企画・運用、広告出稿、レポート作成、効果検証までサポートするSNSアカウント運用支援サービス、SNSマーケティングを効率化するSaaS型のSNS運用支援ツールの開発・提供をしております。また、これらのノウハウを活かしてコンテンツ開発をしたSNSエキスパート検定講座の提供をしております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、広告市場がオフラインからオンラインにシフトする中で、企業のデジタルマーケティングにおいてもSNSマーケティングの重要性は高まっており、(株)コムニコでは、SNS運用支援の大型案件の受注が決定した他、SNS運用支援ツールでは、大手ITグループ会社へのグループ一括導入が決定いたしました。また、成長戦略として掲げるWeb3領域への対応として、イベントなどでのNFTの配布において国内最大規模の実績を持つ株式会社プレイシंकと協業し、SNSキャンペーンツール「ATELU（アテル）」でプレイシंकのNFT技術を使い、TwitterなどSNS上のプレゼントキャンペーンでNFTをデジタルインセンティブとして配布することが可能としております。SNSプラットフォームへの対応及びサービス拡充として、TikTokをはじめとする短尺動画が若年層を中心に浸透し広告主の活用が広がる中、短尺動画を使ったマーケティングに強みをもつ株式会社memeと資本業務提携を行い、短尺動画領域のサービス強化をしております。

(社)SNSエキスパート協会では、様々なメディアへの寄稿や連載、セミナーへの登壇により、SNSに関する知識の普及や安全な利用の啓発に取り組み、検定受講や法人研修の獲得を進めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高（「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含まない外部顧客への売上高（以下同じ））は1,121,384千円（前年同期比19.8%増）、セグメント利益は311,438千円（前年同期比16.2%減）となりました。

## (DX支援事業)

マーケティングオートメーション、営業支援システム、顧客管理システムの3つのクラウドサービスを用いて、顧客の経営課題に沿った戦略策定やプロセスの設計、最適なテクノロジーの選定、運用サポートまでワンストップで支援しております。当第3四半期連結累計期間におきましては、プロジェクトマネージャーの採用を行い、Salesforceの運用サポートサービスの体制強化と顧客開拓に取り組んでまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は65,896千円（前年同期比24.7%増）、セグメント損失は6,009千円（前年同期はセグメント損失9,777千円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ122,164千円減少し1,160,849千円となりました。これは主に、現金及び預金205,801千円等の減少、受取手形及び売掛金66,309千円等の増加によります。固定資産につきましては、前連結会計年度末に比べ94,617千円増加し138,045千円となりました。これは主に、有形固定資産53,066千円、投資その他の資産45,406千円の増加等によります。その結果、資産合計につきましては、前連結会計年度末に比べ27,546千円減少し1,298,894千円となりました。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債につきましては、前連結会計年度末に比べ163,788千円減少し529,507千円となりました。これは主に、買掛金35,252千円、未払法人税等75,679千円、未払金114,915千円等の減少によります。固定負債につきましては、前連結会計年度末に比べ130,298千円増加し298,998千円となりました。これは長期借入金が130,298千円増加したことによります。その結果、負債合計につきましては、前連結会計年度末に比べ33,490千円減少し828,505千円となりました。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ5,944千円増加し470,389千円となりました。これは主に、資本金及び資本剰余金がそれぞれ3,333千円等の増加、利益剰余金が1,857千円の減少によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年5月12日に公表いたしました2023年3月期の通期の業績予想から変更はありません。なお、2023年3月期の連結業績予想に与える新型コロナウイルス感染症の影響は、軽微であると考えております。

本資料に記述されている業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではなく、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	863,913	658,112
受取手形及び売掛金	373,903	440,212
未収還付法人税等	7,955	32,918
その他	37,299	29,658
貸倒引当金	△59	△53
流動資産合計	1,283,013	1,160,849
固定資産		
有形固定資産	1,026	54,093
無形固定資産		
のれん	4,556	1,139
その他	1,230	792
無形固定資産合計	5,787	1,931
投資その他の資産	36,614	82,021
固定資産合計	43,428	138,045
資産合計	1,326,441	1,298,894
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	102,007	66,755
短期借入金	200,000	200,000
1年内返済予定の長期借入金	51,209	84,877
未払金	163,077	48,162
未払法人税等	81,659	5,979
賞与引当金	-	41,483
その他	95,343	82,250
流動負債合計	693,296	529,507
固定負債		
長期借入金	168,700	298,998
固定負債合計	168,700	298,998
負債合計	861,996	828,505
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	266,687	270,021
資本剰余金	241,237	244,571
利益剰余金	△60,558	△62,416
株主資本合計	447,366	452,175
新株予約権	2,940	2,940
非支配株主持分	14,138	15,273
純資産合計	464,444	470,389
負債純資産合計	1,326,441	1,298,894

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	988,878	1,187,280
売上原価	424,645	564,415
売上総利益	564,233	622,865
販売費及び一般管理費	414,821	603,683
営業利益	149,411	19,181
営業外収益		
受取利息	6	22
印税収入	514	719
講演料等収入	1,083	732
補助金収入	-	705
その他	315	62
営業外収益合計	1,919	2,242
営業外費用		
支払利息	3,244	3,088
株式上場費用	6,403	-
株式交付費	5,000	-
その他	298	432
営業外費用合計	14,946	3,521
経常利益	136,384	17,902
特別損失		
固定資産除却損	847	-
特別損失合計	847	-
税金等調整前四半期純利益	135,536	17,902
法人税、住民税及び事業税	72,274	12,413
法人税等調整額	△11,448	6,212
法人税等合計	60,826	18,625
四半期純利益又は四半期純損失(△)	74,710	△723
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,349	1,134
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	72,361	△1,857

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	74,710	△723
四半期包括利益	74,710	△723
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	72,361	△1,857
非支配株主に係る四半期包括利益	2,349	1,134

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額
	SNSマーケ ティング事業	DX支援事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	936,016	52,861	988,878	—	988,878
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	3,971	3,971	△3,971	—
計	936,016	56,832	992,849	△3,971	988,878
セグメント利益 又は損失(△)	371,690	△9,777	361,913	△212,502	149,411

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△212,502千円には、セグメント間取引消去△42,364千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△170,138千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額
	SNSマーケ ティング事業	DX支援事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,121,384	65,896	1,187,280	—	1,187,280
セグメント間の内部 売上高又は振替高	80	3,812	3,892	△3,892	—
計	1,121,464	69,708	1,191,173	△3,892	1,187,280
セグメント利益 又は損失(△)	311,438	△6,009	305,428	△286,247	19,181

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△286,247千円には、セグメント間取引消去0千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△286,247千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更に関する事項

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称を「マーケティングオートメーション事業」から「DX支援事業」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前第3四半期報告累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。